

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
ふるさとを愛し、夢と希望をもって探究し続け、未来を切り拓く子どもの育成を図る教育の推進 ○確かな学力の育成 ○豊かな人間性・社会性の育成 ○評価に基づく組織的な学園経営の推進 「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」結果に基づく充実・改善		○「未来を拓く学校づくり」推進事業の取組により、総合的な学習の時間も含めて探究的な学びが充実。また、保護者・生徒とも前年度より 授業改善の取組 に対する 肯定的な評価が増えた 。 △保護者・生徒とも前年度より 家庭学習習慣化への課題意識 が高まった。基盤となる 主体的で自立 した生徒の育成に向けた取組が必要。 △SNSの適切な取り扱い等、知的理解にとどまることなく人権感覚も含めて高める指導が引き続き必要。		万全の事前指導で生徒の創造的な動きを引き出し、ほめて、認めて、全体の価値として根付かせる <u>「させる」から「自らする(支える)」へ</u> ～ 学校全体も教職員自身も「向き合い、高め、つながる(つなげる)」実践を目指す ～		
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)	学校関係者評価		
学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	教育課程 学習指導	1 認知能力と 非認知能力 を一体的に育み、 自立した学習者 の育成・学習習慣の確立 2 探究的な学び、グローバル人材育成、ICT等の効果的な活用による「個別最適・協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」	・「未来を拓く学校づくり」推進事業の成果をもとに、さらに学校力を向上させる。 ・主体的に学ぶための基盤として、自立した生徒の育成を目指す。 (させる家庭学習から自らを高める取組充実へ) ・ 探究的な学び の充実、 グローバル人材 を育成する授業、 ICT 等の効果的な活用により「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」を追求する。	○学習指導全般でも「させる」から「自らする」ことを追求した結果、各種アンケートで肯定的な評価が増えた。(自習室開放、選択制学習会等、自らを高める取組の充実や、前向きにつながる姿勢) 【保護者】主体的に学習に取り組み、学習意欲を向上させる指導(全項目中最高・前年度より+9.2%)、家庭学習習慣化のため適切な宿題・課題設定、家庭学習の啓発(同+7.6%)、基礎学力定着、活用力伸長を両立させる取組を推進(同+8.6%) 【生徒】みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった(年度当初より+10.6%)、普段の生活の中で自分の考えを自由に話すことができる(同+5.5%) △探究的な学び、グローバル人材を育成する授業、ICT等の効果的な活用による「個別最適な学び」「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」については、さらに追求していく。	・生徒自らが企画・運営した外部講師を招いてのワークショップ開催等、学習指導以外の面においても、生徒自らが考え、自分たちの学校をよりよくしていこうという気運の高まりに感心する。 ・大人も同様に自立した姿勢が必要。将来を見据え、主体的な姿勢や意欲の向上を図り、主体的で自立した生徒の育成を引き続き進めてほしい。	
	生徒指導	1 組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上、人権意識の醸成 2 生徒・保護者・地域との信頼関係づくり 3 発達支持的生徒指導、教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践	・生徒指導部会・教育相談部会を中心とした組織的な対応や、個・集団の丁寧な アセスメント をもとにした支援を行う。 ・発達支持的生徒指導、教科の指導と生徒指導の一体化を意識した教育実践により、自己肯定感の醸成やいじめ防止・不登校等の未然防止に向け、誰もが受け入れられる「居場所づくり」「絆づくり」や 多様な学びの場を充実 させる。	○多様な学びの場(通称「あみぐるみ」)を開設・定着させることができた。 △生徒指導部会・教育相談部会を中心とした組織的な対応や、個・集団の丁寧なアセスメントをもとにした支援、自己肯定感の醸成やいじめ防止・不登校等の未然防止に向け、誰もが受け入れられる「居場所づくり」「絆づくり」が進み、アンケートでも「家庭・地域と連携し、安心・安全に学校生活を送れる」と保護者の約8割、生徒の9割以上(年度当初より+5.8%)と肯定的な評価を得たが、さらなる高みを目指すことが必要である。	・居場所をつくりサポートすることは大切で、大人についても同様の取組が広がる等、社会全体でも進められている。校内での丁寧な合意形成のもと、多様な学びの場(通称「あみぐるみ」)の効果的な運用を期待する。	

学校教育指導の重点、保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> 1 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成 2 生徒・教職員の健康・安全の更なる推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練（火災・地震・不審者侵入対応等）、非行防止・薬物乱用防止教室等を活用し、生徒・教職員の意識を高める。 ・行事や部活動の重点化や整理を進めるとともに、教職員の働き方改革が<u>目に見えた形</u>で推進されるよう模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練、薬物乱用防止・非行防止教室、性の学習、ゲームネット講座等により意識高揚を図った。 ○教職員の働き方改革について、外部講師によるワークショップの開催等、目に見える形として動き始めた。 △SNSの取り扱いについては、引き続き知的理解にとどまらず人権感覚を高める指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS社会の中での義務教育であり、多くの情報の中で生き抜いていく中学生にとって様々な不安が付きまとうが、この先困ることがないよう、引き続きの指導が必要である。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 1 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善 2 校内支援体制の機能化と指導力量の向上・人材育成 3 個々の生徒や保護者のニーズの把握と支援の充実、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する支援を要する生徒も含めて生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画にもとづく指導・支援を充実させ、有効な手立てを蓄積する。 （<u>「効果のある指導・支援」と「避けた方がよい指導・支援」の共有</u>等） ・校内支援体制の機能化とともに、教職員の<u>指導力量向上・人材育成</u>を図る。 ・生徒・保護者と丁寧な面談や、関係機関と連携した支援を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「効果のある指導・支援」と「避けた方がよい指導・支援」の共有、生徒・保護者との丁寧な面談、医療機関・支援学校・行政機関との連携や、校内での生徒指導部・教育相談部との連携等による体制整備を行い、常によりよい指導・支援を検討・実践できた。 △さらに生徒の実態や生徒・保護者のニーズにあった教育支援を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗やぶつかりあいも含め、様々な経験を通して必要となる力をつけていくという視点と、きめ細かで丁寧な配慮を行うこととのバランスが難しいと思うが、引き続き実態やニーズを踏まえながら、よりよい指導・支援を検討・実践していくことが大切である。
	開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 1 信頼される学校づくりの推進 2 地域の教育資源の活用 3 学園運営協議会等の各関係機関との連携と協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の「みんなでやる」という強み・学校風土のもと、<u>相手の目線・心情に寄り添う</u>ことを大切に、さらに誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 ・各種手法による情報発信に加え、地域に向いての作品展示等、積極的に生徒の頑張りを伝え、地域との連携を深める。 ・学園運営協議会等の関係機関と連携・協働し、地域とともにある学校、信頼される学校づくりをさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開や、学校の取組をHPや便りでお知らせする等の従来の手法に加え、新たに地域に向いての作品展示等、積極的に発信し「開かれた学校づくり」を進めた。 △引き続き、相手の目線・心情に寄り添うことを大切に、より誠実・迅速・丁寧な対応に努める。 △学園運営協議会等の関係機関と連携・協働するとともに、学校評価アンケート、網野学園評価を分析し、今後の学校経営に生かし、地域とともにある学校、信頼される学校づくりをさらに進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも、健康・安全という点で気になる子どもを見かけることがあり、地域の一員としてどう対応すべきか悩むことがある。様々な関係機関が連携・協働し、引き続き子どもたちを見守りたい。 ・地区での行事で接する中学生の姿に好感をもつ。地域の一員として大切に育んでいる。
	次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学ぶための基盤になる自立した生徒の育成を目指した取組を推進し、さらに、「させる」から「自らする（支える）」へシフトさせるとともに、学校全体も教職員自身も「向き合い、高め、つながる（つなげる）」実践を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「自らする」風土を醸成し、地域の宝を育む学校に近づくことを期待する。 		